

こんな活用方法が考えられます!!

- 1 目的** 今後、労働者の年齢構成の上昇により「転倒」「墜落・転落」の災害が増加することが予想されます。これらの労働災害を減らすため、転倒等の災害リスク把握のためのセルフチェックを実施し、身体的特性や身体的特性への認識、安全意識等の個人の状況を把握することにより、各個人が自らの災害リスクを把握し、改善を図ることにより災害リスク低減を図ることを目的としています。また、事業場全体の集計結果を算出することにより、労働者の災害リスク傾向を把握でき、具体的な対策をとることにより災害リスク低減をより確実なものとしします。
- 2 対象** 性別、業種、年齢を問わず実施可能です。平成21年度は試行のため、50歳以上を一定数含む労働者を対象とします。
- 3 人数** 事業場においては、全員を対象、部署別、5年に1回などで実施することにより、災害リスクの把握に活用することができます。本年度は試行のため、様々な規模、多くの職種等のデータを把握する必要があるため1事業場あたり10名~100名程度で実施します。
- 4 結果** セルフチェックが終了した時点で、身体機能計測結果・質問票の結果をセルフチェック票に記入することにより、すぐに結果を知ることができます。また、事業場集計を行うことにより、事業場全体の災害リスク、年代別の災害リスク等を把握することができ、今後の対策の参考とすることができます。(試行では、当協会において、集計を行い送付します。)

- 5 対策 (個人)** セルフチェックを終了した時点で個人結果が把握できるため、すぐに次のような対策をとることができます。
- ・自分の身体機能の状態、つまづき等に対する災害リスクを把握できる
 - ・筋力アップのための運動をはじめ
 - ・通路や作業スペースの整理整頓でつまづき防止を図る
- (事業場)** 事業場集計結果の把握により、事業場の方針に沿って次の対策等を実施することが考えられます。
- ・従業員全体、年代別の身体機能のレベルを把握できる
 - ・従業員全体、年代別の安全意識、転倒等リスクを把握できる
 - ・結果を受け、体力向上を図るため、職場体操に下肢筋力アップ体操を導入する
 - ・経年変化の確認のため、健康診断にあわせ下肢筋力チェックを実施する
 - ・通路を明確に表示し、通路に物を置かないよう改善する
 - ・段差解消や滑り止めの設置、柵の設置など設備面で対応する

体力の衰えにより災害リスクが高まります!!

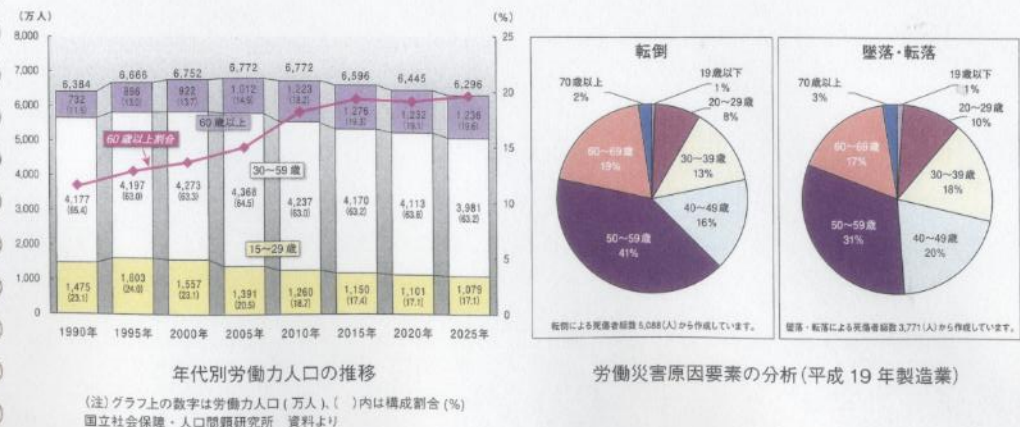
年齢を重ねるにつれ筋力、特に脚筋力が衰えてきます。脚筋力が低下すると、バランス能力、歩行能力が低下することから「転倒」「墜落・転落」の災害が増加することが懸念されます。



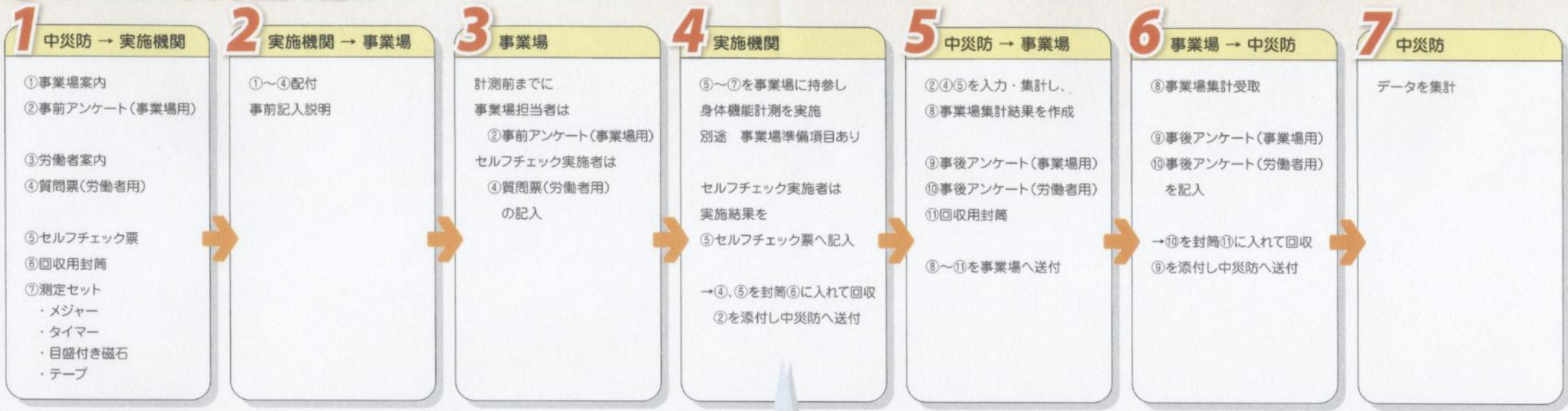
高齢者雇用安定法の施行により、65歳までの「定年延長、継続雇用制度」が実施されます。今後、さらに高齢労働者の割合が増加し、特に「転倒」「墜落・転落」等の労働災害が増加することが予想されています。

「転倒」「墜落・転落」の労働災害予防に向け、災害リスクのチェックをしてみませんか。

セルフチェック項目 身体機能・・・歩行能力、筋力、バランス能力等を中心に身体機能を計測します。意識・・・身体機能の自己評価、職場での日頃の行動、安全意識等を確認します。



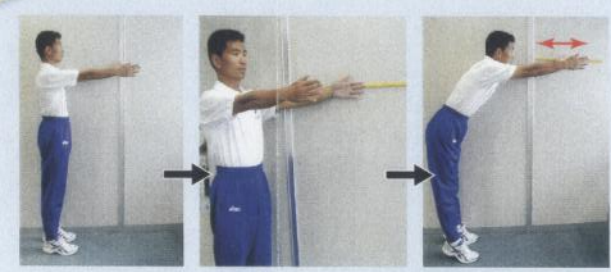
セルフチェック実施の流れ



2ステップテスト (最大2歩幅を計測し身長で割ります)



ファンクショナルリーチ (水平にどのくらい腕を伸ばせると思えますか)



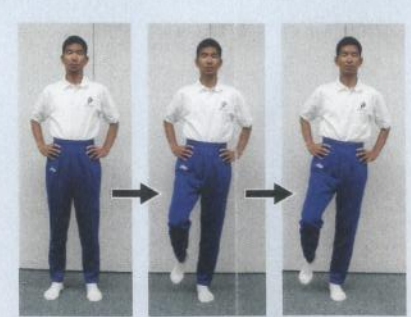
開眼片足立ち (眼を開いて片足でどのくらい立てますか)



座位ステッピングテスト (20秒間で何回開閉できますか)



閉眼片足立ち (眼を閉じて片足でどのくらい立てますか)



これらは、歩行能力やバランス能力を確認する計測方法です。
どのくらいできると思いますか?